

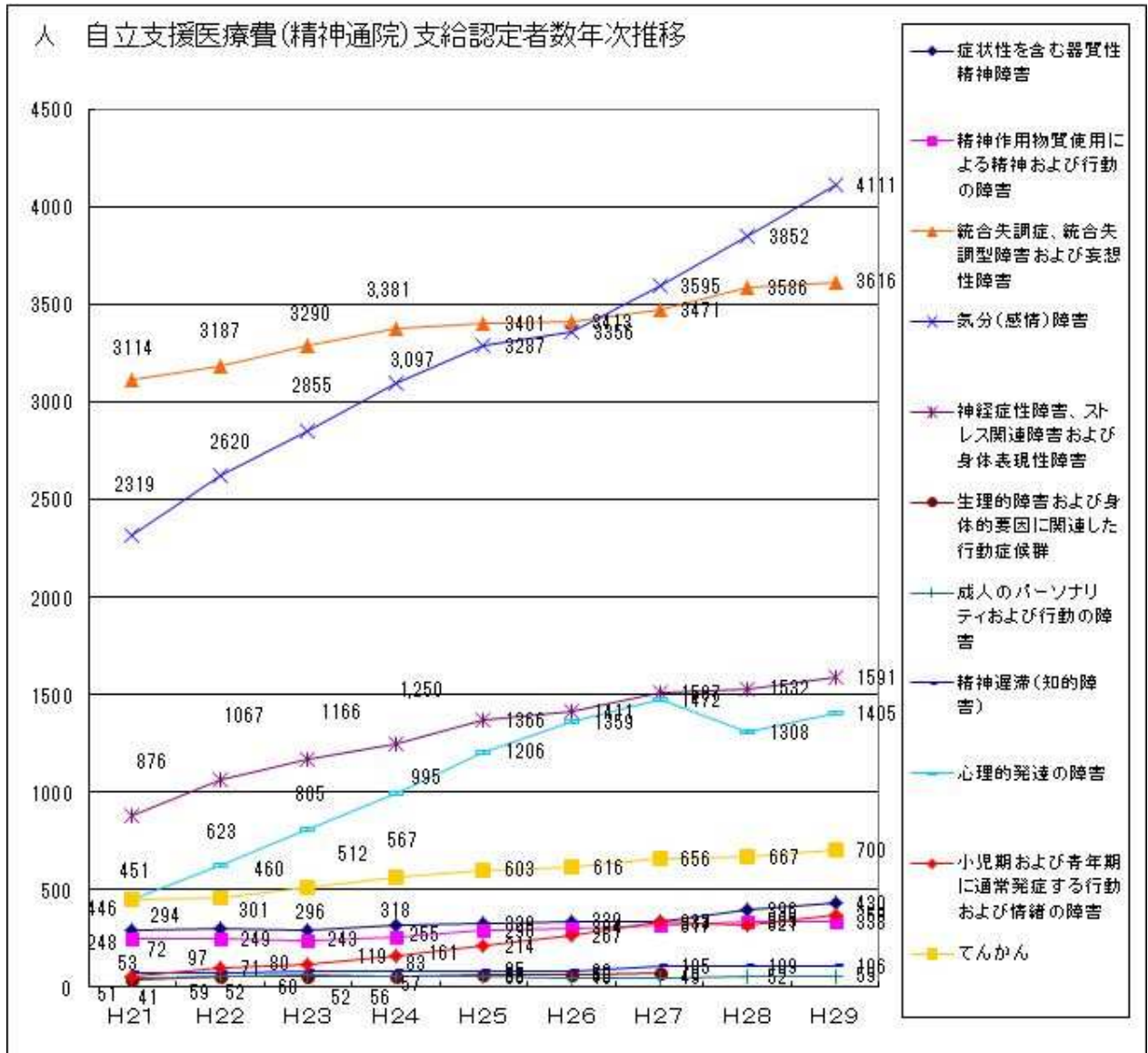
# 岡山市の精神保健医療の現状

平成31年1月9日

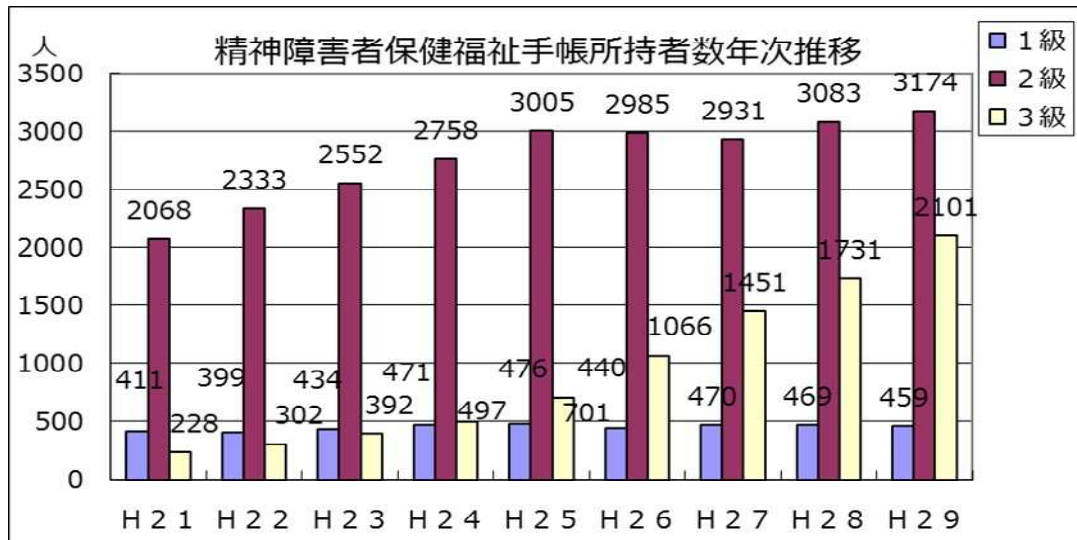
岡山市保健福祉局保健福祉部  
保健管理課

# 岡山市の精神保健医療の現状

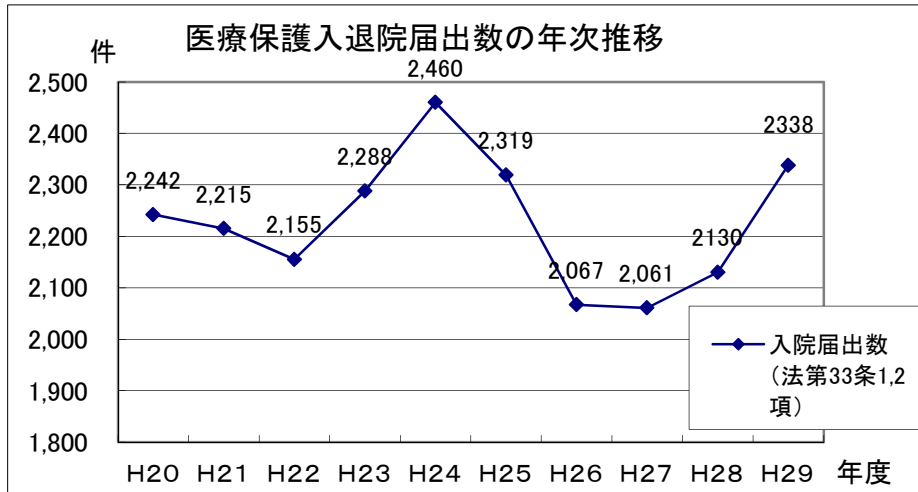
## 1. 自立支援医療費(精神通院)の支給認定状況



## 2. 精神障害者保健福祉手帳所持者の状況



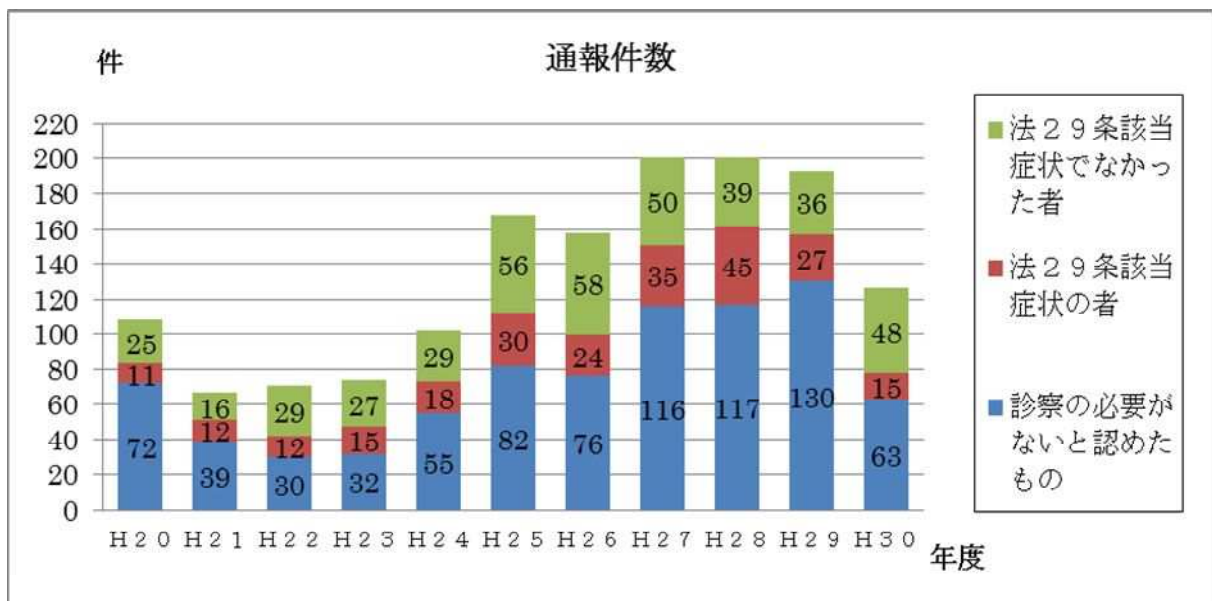
### 3. 医療保護入院の状況



### 4. 措置入院の状況

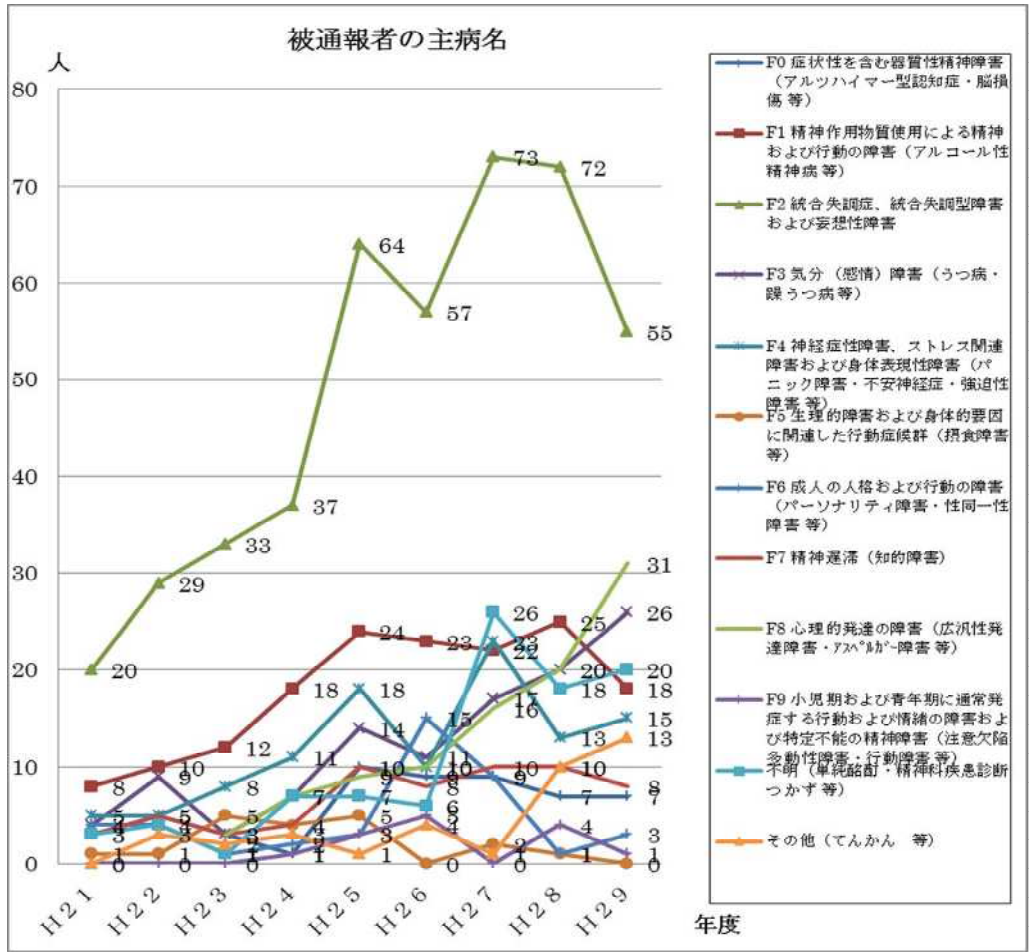
#### ① 通報等の処理件数

年度	申請通報届出数	診察の必要がないと認めたもの	診察を受けた者	
			法29条該当症状の者	法29条該当症状でなかった者
H21	67	39	12	16
H22	71	30	12	29
H23	74	32	15	27
H24	102	55	18	29
H25	168	82	30	56
H26	158	76	24	58
H27	201	116	35	50
H28	201	117	45	39
H29	193	130	27	36
H30(4/1~11/30)	99	63	15	48

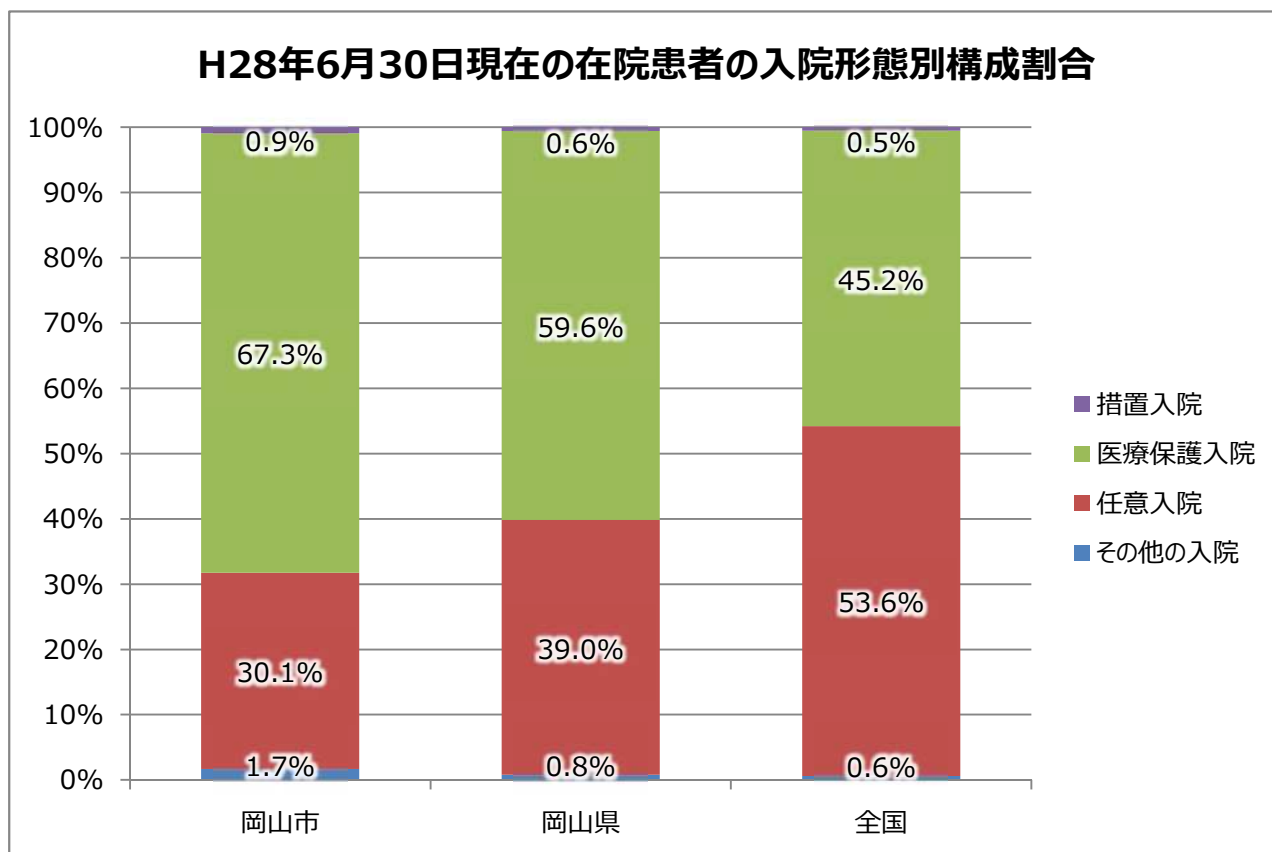
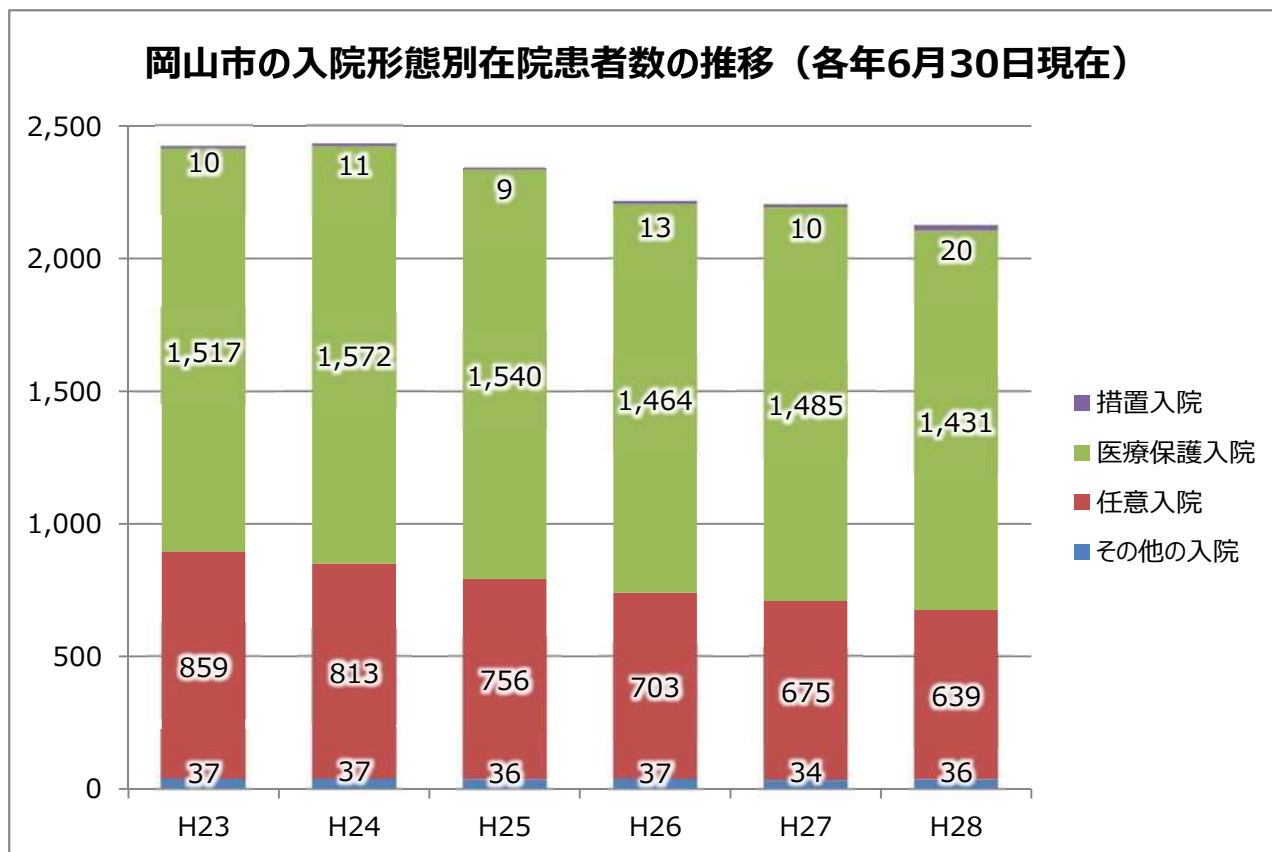


※H30年度は4/1~11/30までの実績

④ 被通報届出者の主病名

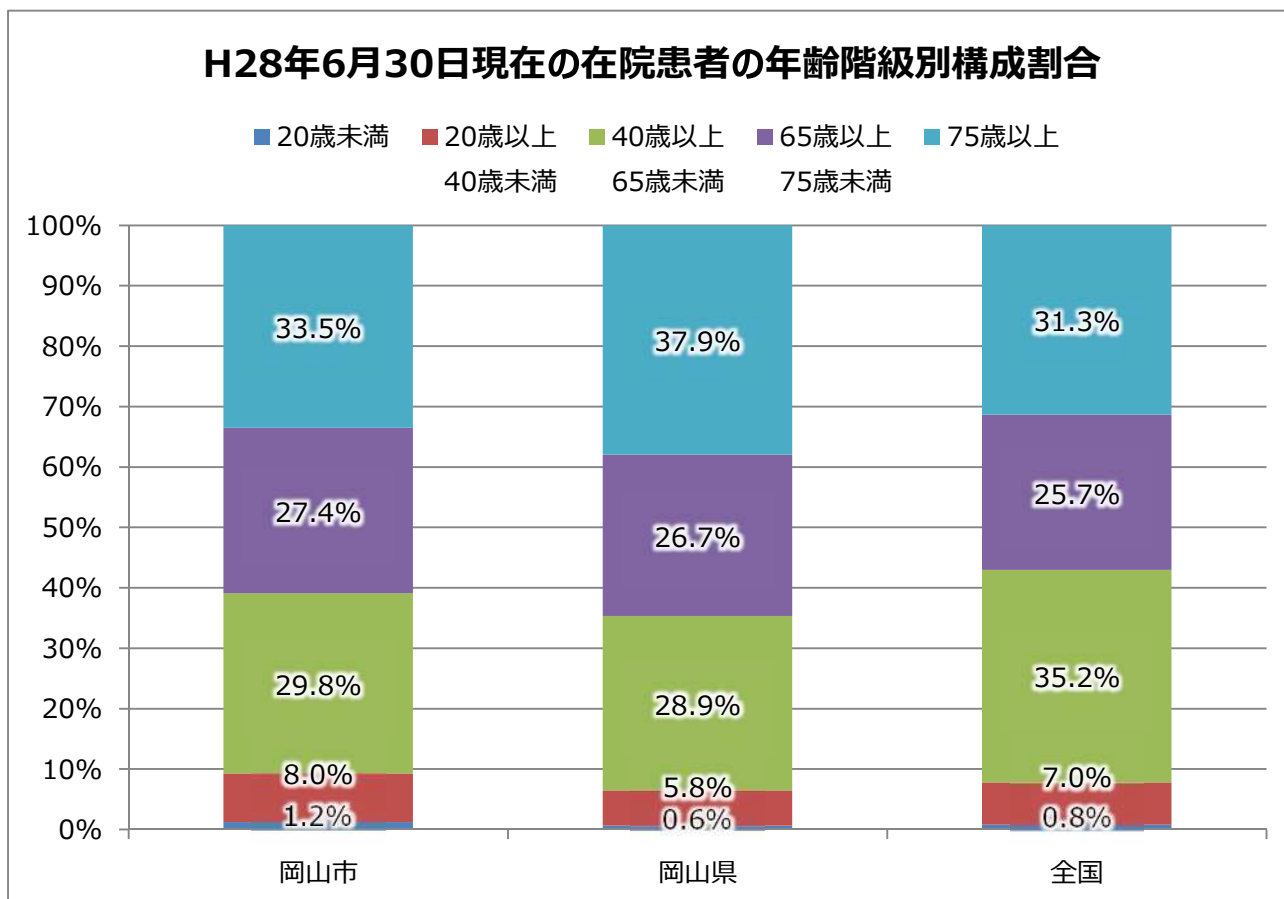
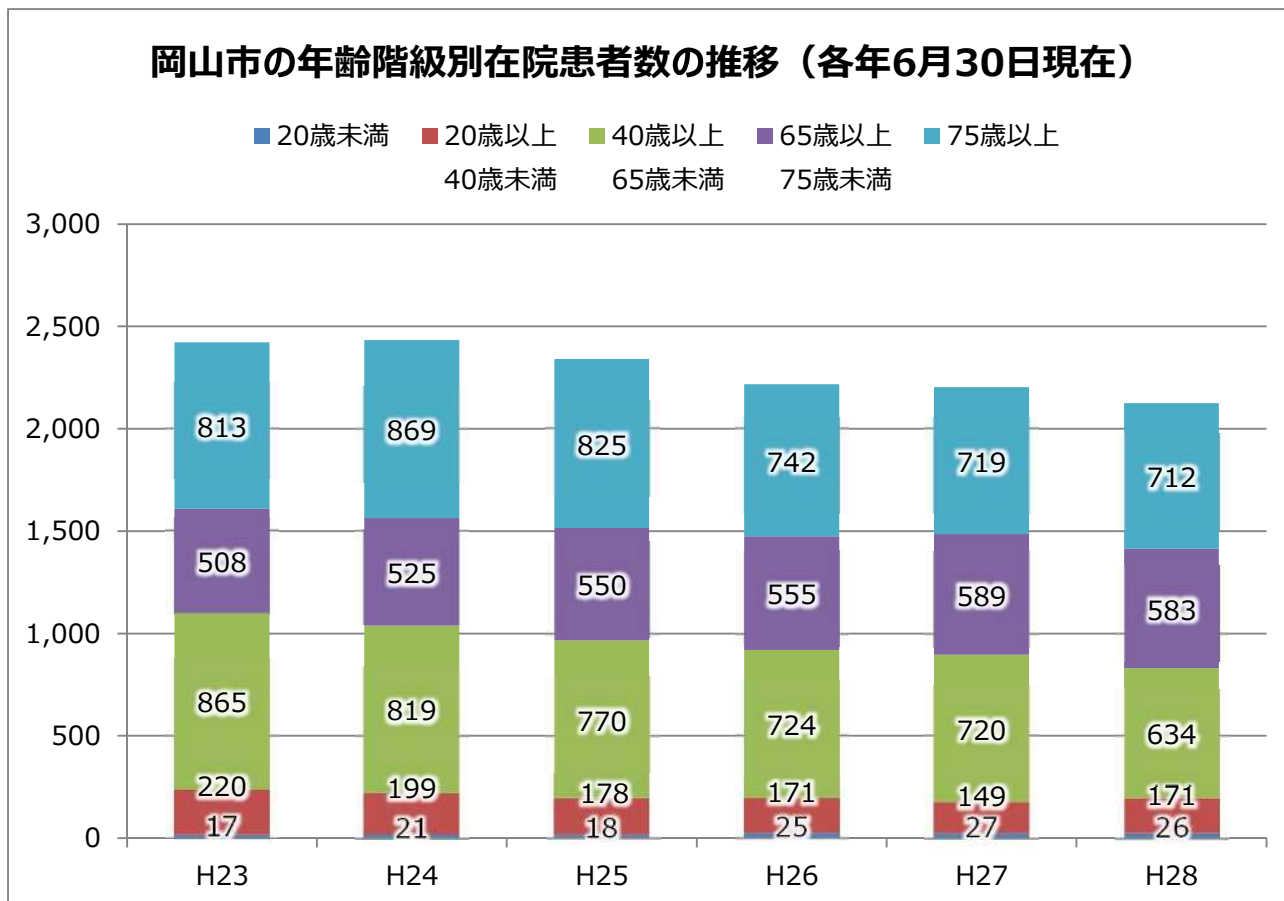


## 5. 精神科病院在院患者の状況①



資料：厚生労働省「精神保健福祉資料」より岡山市作成

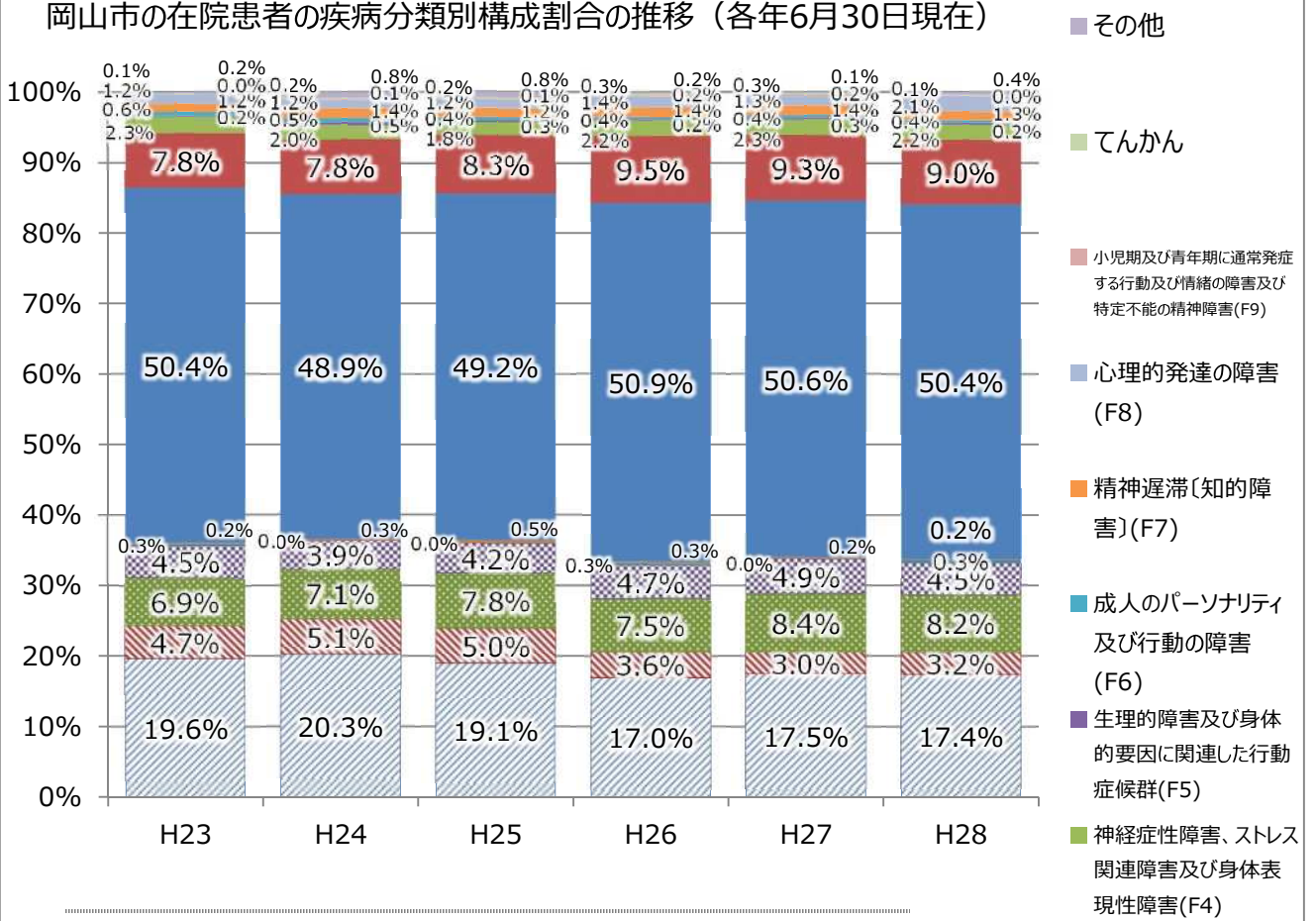
## 6. 精神科病院在院患者の状況②



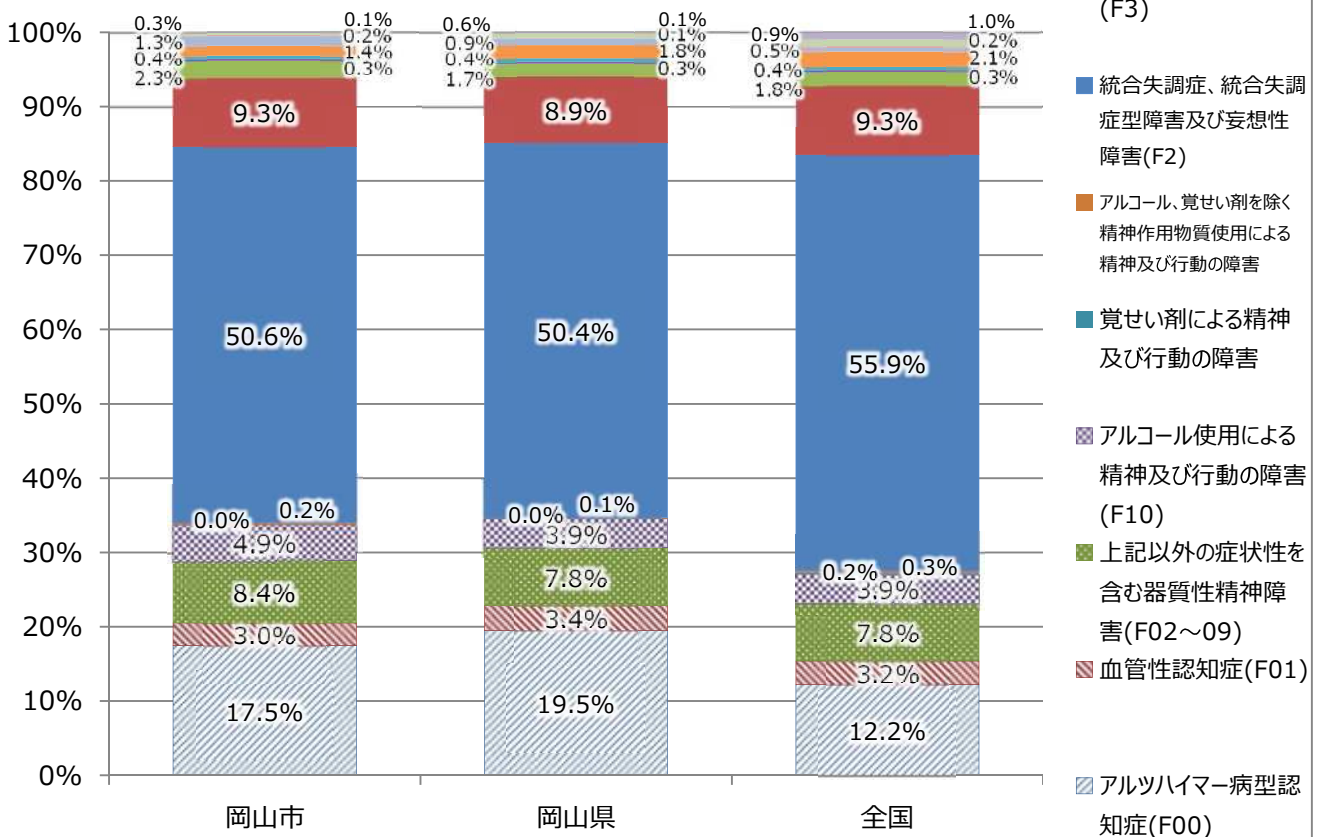
資料：厚生労働省「精神保健福祉資料」より岡山市作成

## 7. 精神科病院在院患者の状況③

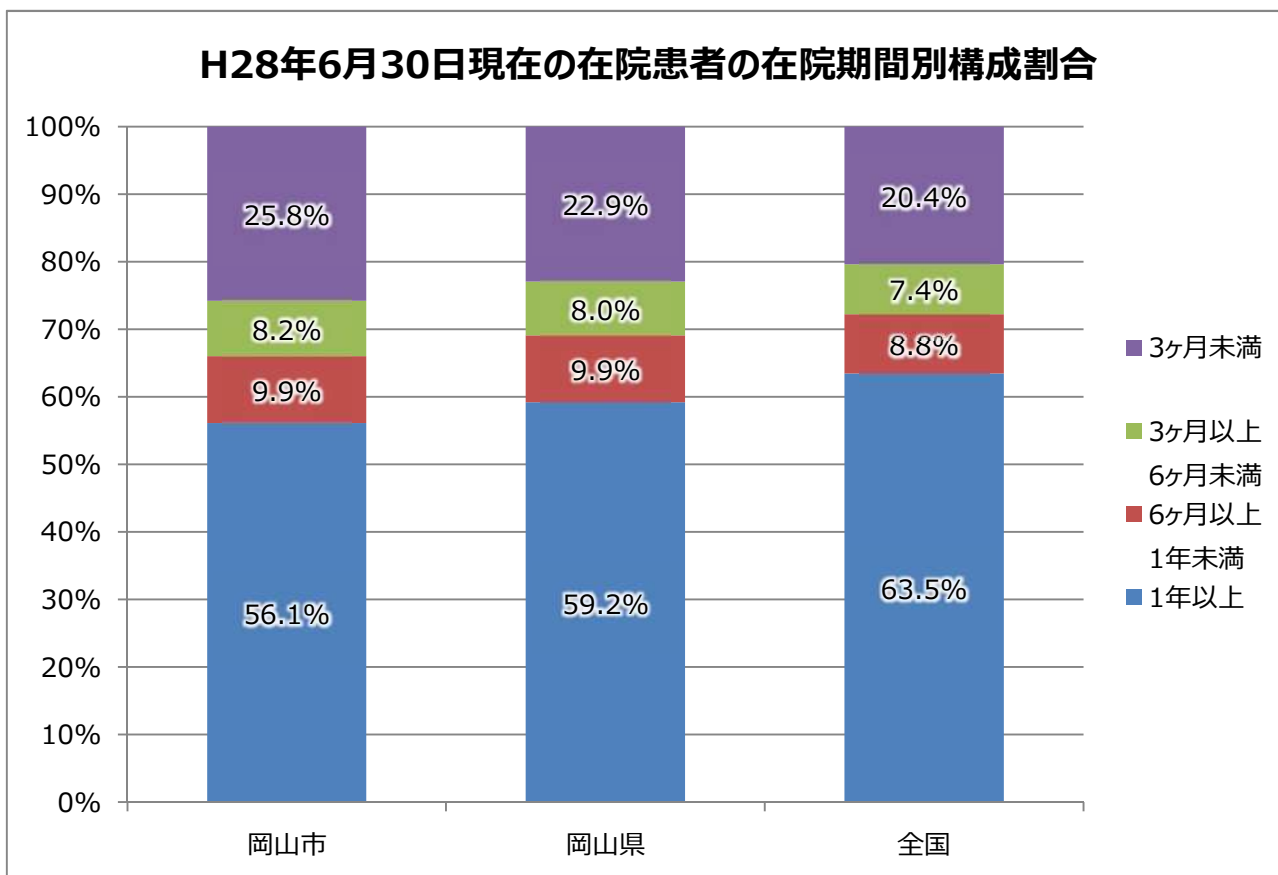
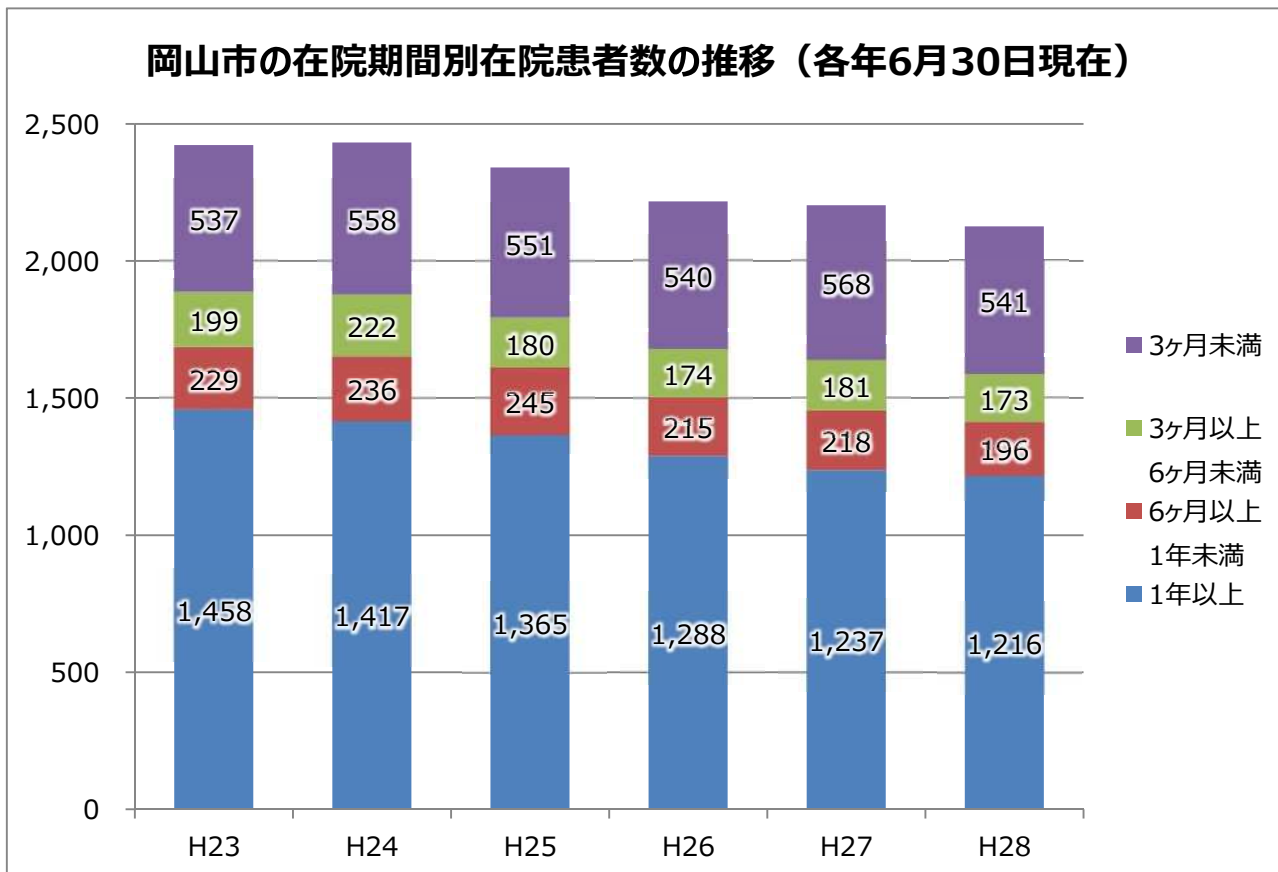
岡山市の在院患者の疾病分類別構成割合の推移（各年6月30日現在）



H28年6月30日現在の在院患者の疾病分類別構成割合



## 8. 精神科病院在院患者の状況④



資料：厚生労働省「精神保健福祉資料」より岡山市作成



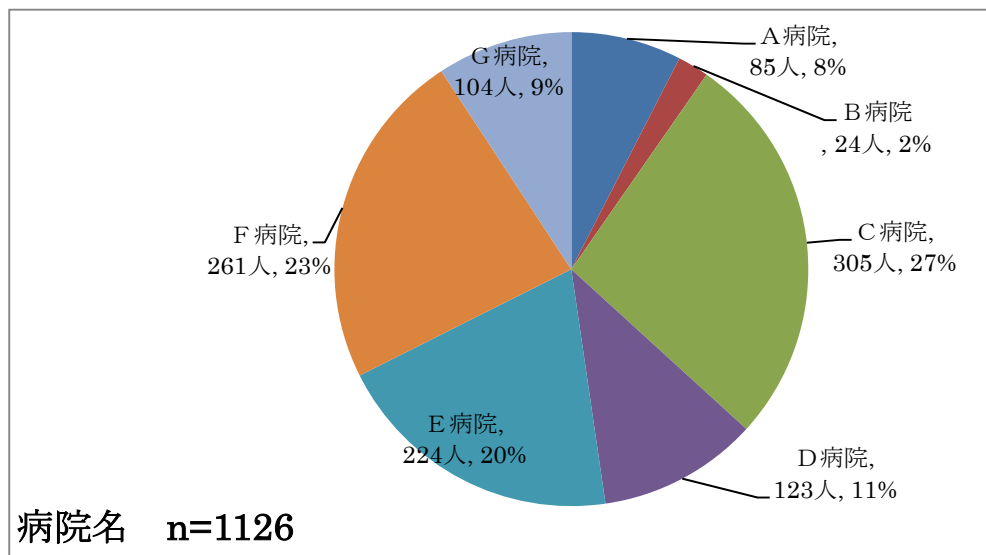
## 9. 平成 29 年度 岡山市精神科病院入院患者調査 結果

### (1) 対象者数

市内 8 病院から調査の回答が得られた。(回答率 100%)

うち、1 病院は「該当者なし」との回答であった。残る 7 病院から「1 年以上入院を継続している患者」をあわせて 1126 名との回答を得た。

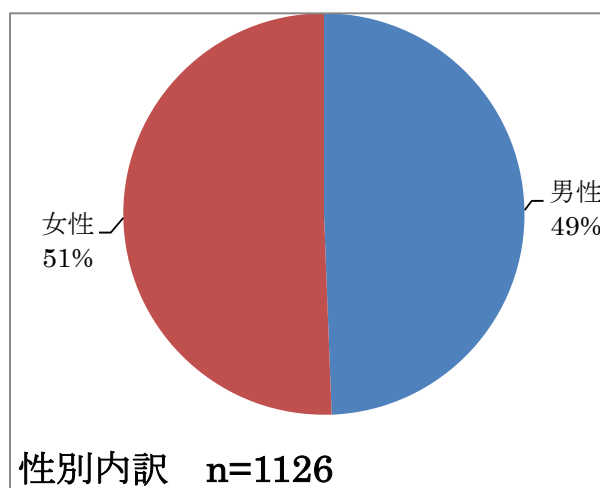
(参考：H29 年 8 月 31 日時点の岡山市内の入院患者数 2063 人)



病院別内訳ではC病院が最も多く 305 名 (27%)、次いでF病院の 261 名 (23%)、E病院の 224 名 (20%) であった。この 3 病院で全体の 70%を占めていた。

### (2) 性別

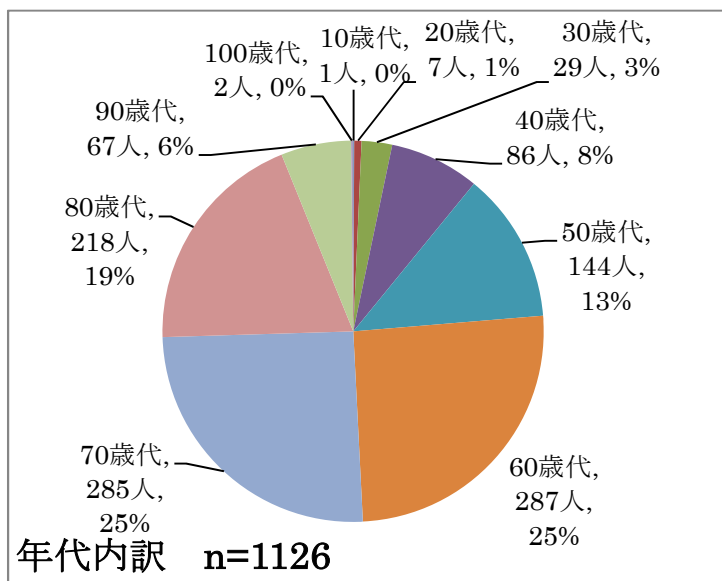
n=1126	
性別	人数
男性	556
女性	570



男女に大きな差はなかった。

### (3) 年代

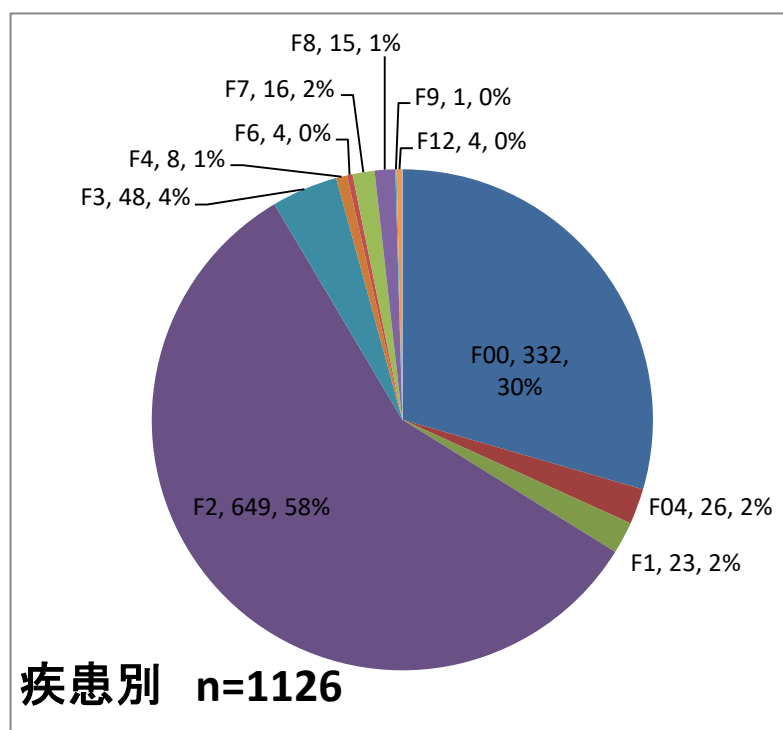
n=1126	
年代	人数
10 歳代	1
20 歳代	7
30 歳代	29
40 歳代	86
50 歳代	144
60 歳代	287
70 歳代	285
80 歳代	218
90 歳代	67
100 歳代	2



年齢別では60代、70代が最も多く25%を占めた。次いで80代の19%となり、長期入院患者の高齢化がうかがわれた。

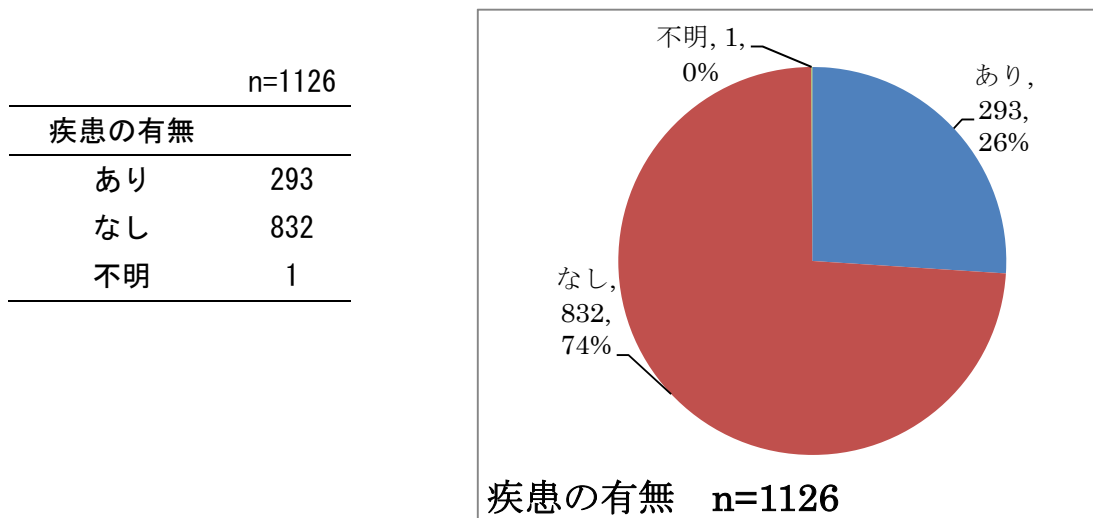
### (4) 疾患別

n=1126	
Fコード	人数
F00	332
F04	26
F1	23
F2	649
F3	48
F4	8
F5	0
F6	4
F7	16
F8	15
F9	1
12	4
13	0



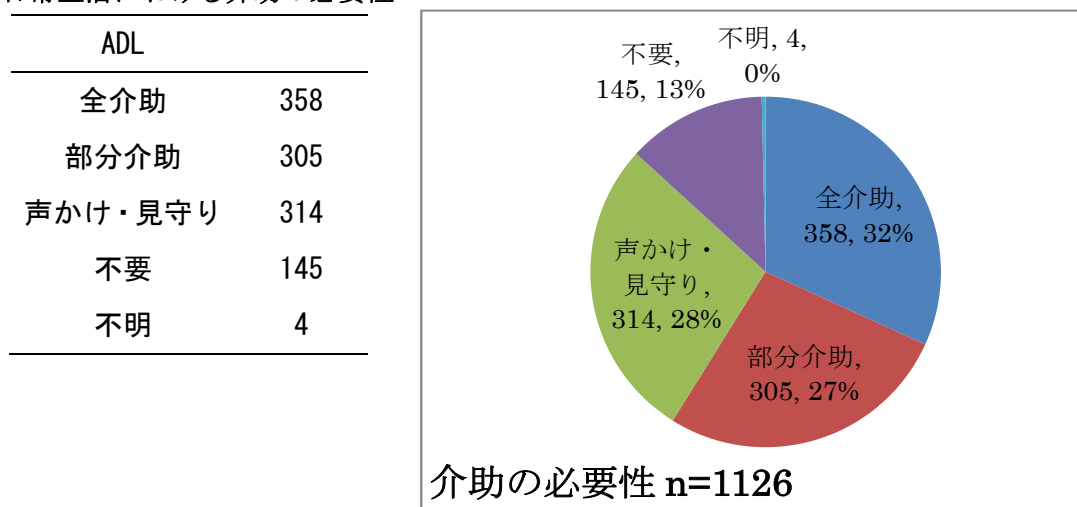
疾患別ではF2 統合失調症が最も多く、全体の約57%を占めていた。次いでF0 症状性を含む器質性精神障害が約30%を占めていた。

(5) 日常生活に支障をきたしている身体疾患



日常生活に支障をきたしている身体疾患を有する人は 293 人（26%）であった。

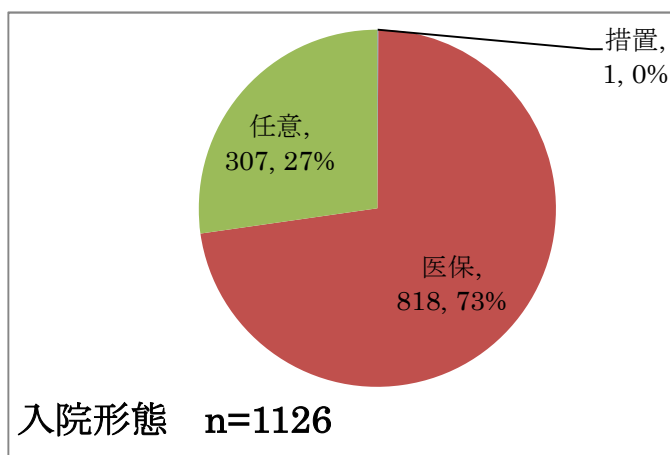
(6) 日常生活における介助の必要性



全介助が最も多く全体の 32%を占めていた。部分介助も含めると約 57%の方が何らかの介助が必要であった。また介助は不要であるが、声かけや見守りが必要な方が 28%を占めた。

(7) 入院形態

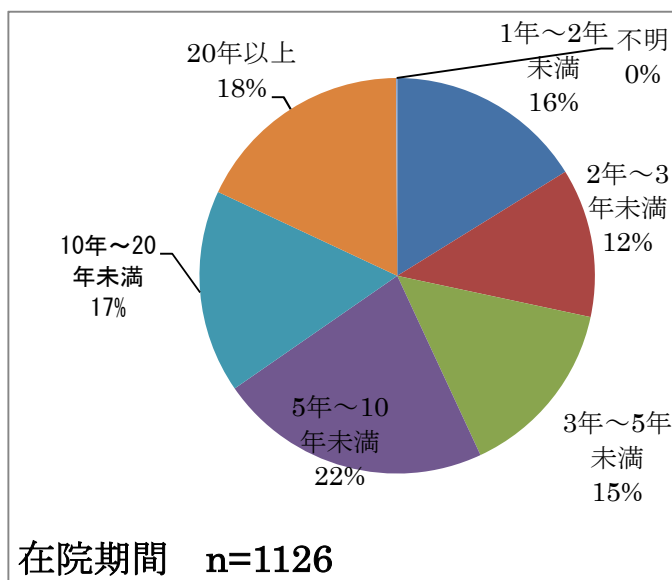
n=1126	
入院形態	
措置	1
医保	818
任意	307



医療保護入院が最も多いが、任意入院での長期入院患者も 27%を占めていた。

(8) 在院期間

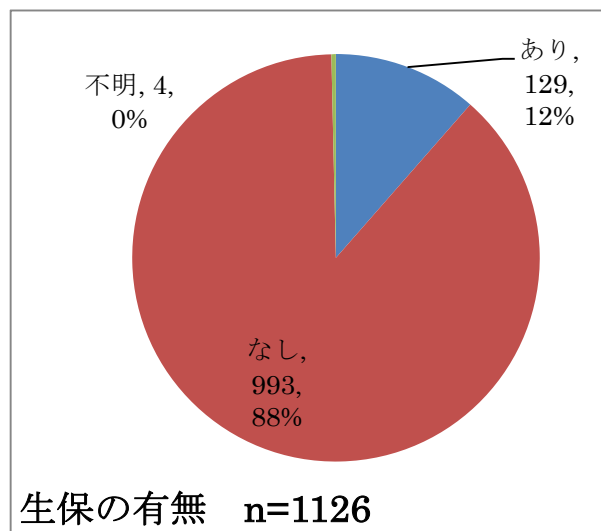
n=1126	
入院期間	
1年～2年未満	182
2年～3年未満	137
3年～5年未満	166
5年～10年未満	251
10年～20年未満	187
20年以上	202
不明	1



5年～10年未満の入院患者が 251名 (22%) と最も多かった。次いで 20年以上の長期入院患者も 187名 (18%) を占めていた。

(9) 生保受給の有無

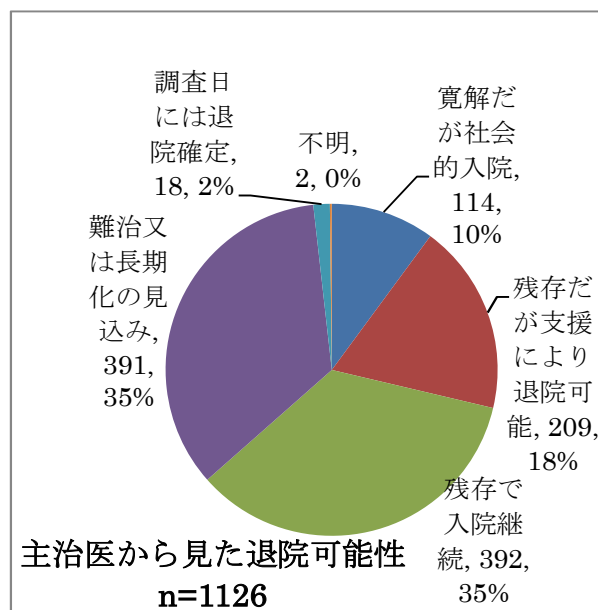
n=1126	
生保の有無	
あり	129
なし	993
不明	4



生活保護を受給をしていない方が全体の 88%を占めた。

(10) 主治医からみた現時点での退院可能性

n=1126	
主治医から見た状態	
寛解だが社会的入院	114
残存だが支援により退院可能	209
残存で入院継続	392
難治又は長期化の見込み	391
調査日には退院確定	18
不明	2



「残存で入院継続」及び「難治又は長期化の見込み」が最も多く 35%を占めていた。次いで「残存だが支援により退院可能」が 209 名 (18%)、「寛解だが社会的入院」114 名 (10%) であった。

### (11) 退院阻害要件

退院阻害要件は複数回答であった。阻害されていると思われる順に記載を依頼していた。

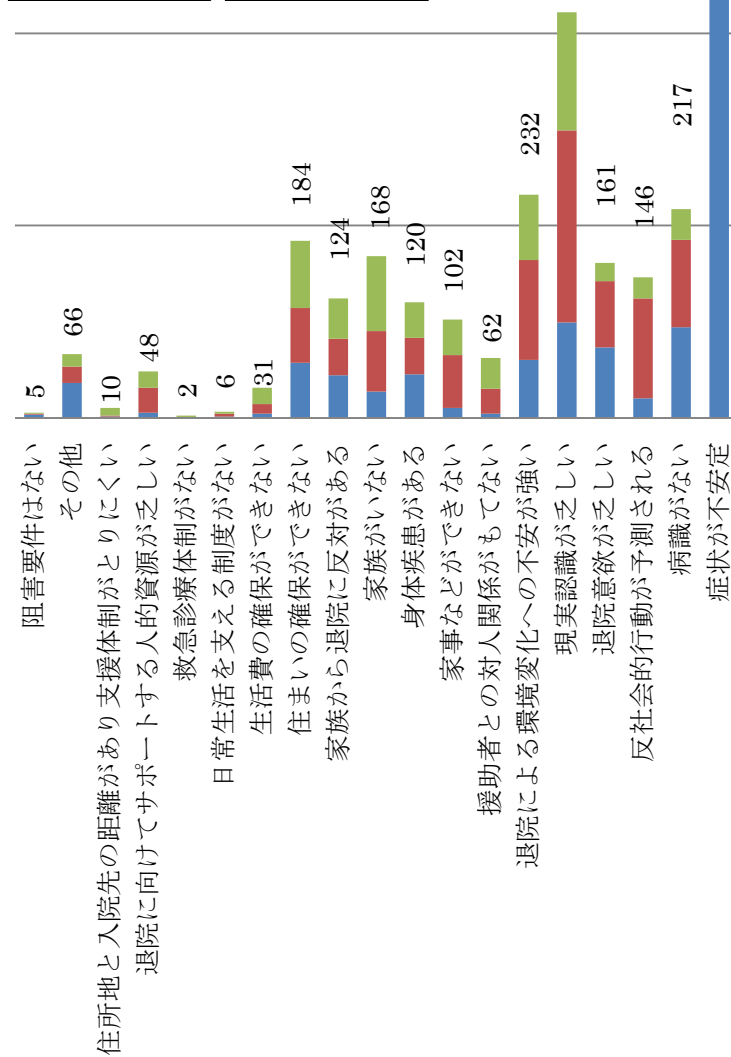
退院阻害要件	順位		
	①	②	③
症状が不安定	540	26	16
病識がない	94	91	32
反社会的行動が予測される	20	104	22
退院意欲が乏しい	73	69	19
現実認識が乏しい	99	200	123
現実による環境変化への不安が強い	60	104	68
援助者との対人関係がもてない	4	26	32
家事などができない	10	55	37
身体疾患がある	45	38	37
家族がいない	27	63	78
家族から退院に反対がある	44	38	42
住まいの確保ができない	57	57	70
生活費の確保ができない	4	10	17
日常生活を支える制度がない	1	3	2
救急診療体制がない	0	0	2
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	5	26	17
住所地と入院先の距離があり支援体制がとりにくい	1	1	8
その他	36	17	13
阻害要件はない	3	1	1
無回答	3	197	490

# 退院阻害要件 n=1126

本人要因			
	①	②	③
症状が不安定	540	26	16
現実認識が乏しい	99	200	123
退院による環境変化への不安が強い	60	104	68
病識がない	94	91	32
退院意欲が乏しい	73	69	19
合計	540	26	16

社会的要因			
	①	②	③
住まいの確保ができない	57	57	70
家族がいない	27	63	78
家族から退院に反対がある	44	38	42
身体疾患がある	45	38	37
家事などができない	10	55	37
合計	57	57	70



	1000	800	600	400	200	0	1000	1200	1400
退院に向けてサポートする人的資源が乏しい	5	1	5	5	5	5	5	1	36
救急診療体制がない	0	0	0	0	0	0	0	1	17
日常生活を支える制度がない	1	3	2	2	2	2	2	8	13
生活費の確保ができない	4	10	17	17	17	17	17	10	66
住まいの確保ができない	57	57	70	184	184	184	184	31	582
家族から退院に反対がある	44	38	42	124	124	124	124	10	37
家族がいない	27	63	78	168	168	168	168	37	102
身体疾患がある	45	38	37	120	120	120	120	37	102
家事などができない	10	10	37	102	102	102	102	55	37
援助者との対人関係がもてない	4	26	32	62	62	62	62	38	37
退院による環境変化への不安が強い	60	104	68	232	232	232	232	69	19
現実認識が乏しい	99	200	123	422	422	422	422	70	184
退院意欲が乏しい	73	69	19	161	161	161	161	57	70
反社会的行動が予測される	20	104	22	146	146	146	146	38	37
病識がない	94	91	32	217	217	217	217	42	124
症状が不安定	540	26	16	582	582	582	582	38	120
合計	540	26	16	582	582	582	582	37	102